



「第40回定期大会」大会宣言

大会宣言

本日、JR東労組仙台地方本部は、イベントホール松栄において「第40回定期大会」を開催した。昨年の定期大会以降のたたかひの成果と課題を共有し、「命と安全」を守り、あらゆる課題に職場からの挑戦で立ち向かい、組織強化・拡大を全組合員で推し進める運動方針を満場一致で確認した。

24春闘は定期昇給（昇給係数4）の実施、所定昇給額と同一の額及び4,000円を加える基本給改定の実施、基本賃金に6,000円を加えるエルダー社員の賃金改訂の実施、夏季手当は基準内賃金の2.7ヶ月分などの早期回答を受けた。現行の人事・賃金制度改正以降、ベースアップに過去最大の格差がつき、夏季手当は低水準の回答であった。要求と趣旨から乖離していたため、緊急再申し入れを行い最後までたたかひをつくり出してきたが回答を変えることはできなかった。また、妥結以降も、組合員の声を踏まえ夏季一時金の申し入れを行ったが、職場の奮闘と努力に報いない経営姿勢を改めさせることができなかった。「経営参画意識の醸成＝社員化」を労働者意識で突破していくことが重要である。今後も、「新たな人事・賃金制度の改正」や「新たな格差拡大」が狙われていることに対して危機感を持ち、「鉄道の安全を守る」観点からも、たたかひをつくり出していく。

「安全計画2028」発表後も職場では事故・事象が相次いでおり、経営のトッププライオリティである安全が崩壊しようとしている。また、「稼ぐ」が強調され「列車を止めてはいけない」企業風土が広まっている。このような状況だからこそ、私たちは職場現実と自らの仕事に対する姿勢を捉え返し、「安全第一」の職場と自らの意識の確立を図らなければならない。一方で懲罰的日勤教育やパワハラ、隠蔽、懲戒権の乱用、見せしめの異動などの恐怖支配では安全を守ることではできない。原因究明委員会や職場議論を通じて職場現実や本音を語り合い、「安全・健康・ゆとり」が担保された風通しのよい職場をつくり出していこう。

職場では人の繋がりを大切に、未加入者の声に耳を傾けてきた。そして、本音の議論で職場活動を地道に取り組みJR東労組の必要性を訴えてきた。その結果、15名の新たな仲間を迎い入れることができた。今起きている職場や社会の現実を労働者意識で真剣に考えられる仲間の輪を拡げていくために更なる組織強化・拡大を実現していこう。

私たちは、地方ローカル線を取り巻く問題に対し、組合員の雇用と生活と地域を守るため、市民団体「りくとうサポーターズ」と共に「ローカル線活性化シンポジウム」を開催した。米坂線の全線運転再開をめざすと共に、各地方ローカル線沿線に強靱な地域連帯をつくりだそう。

世界の各地で戦争が行われ、尊い命が奪われている。日本も軍事力強化の動きが活発化し、着実に戦争体制がつけられている。あらゆる戦争政策に反対し、安心して暮らせる平和な社会を実現するため憲法9条を守り広める仲間と強く連帯し、いかなるテロや戦争にも反対の声をあげていこう。

私たちを取り巻く現状は厳しいが、職場の現実を掴み、本音の相互議論で弱点を指摘し合い仲間を守っていこう。そして、「命と安全」を最大の価値基軸に仲間と議論を積み重ね、職場からの実践で組織強化・拡大を実現し、未来に向かって邁進していこう！

以上宣言する。

2024年7月6日
東日本旅客鉄道労働組合
仙台地方本部
第40回定期大会

「命と安全」を脅かす現実に対し

「職場からの挑戦」で、全組合員で立ち向かおう！